

## 1. 小規模な保育園における「こどもたちへの影響」

少人数のアットホームな環境には良さもある一方で、こどもの育ちにおいて以下のような課題が心配

### ・友達関係の固定化

同年齢の友達が少ないため、いつも同じメンバーで過ごすことになり、多様な考え方や新しい刺激に触れる機会が限られる。

いろいろな友達と関わる中で、考えを出し合い譲り合ったりするなど、こども同士で育ち合う機会が少ない。

### ・集団での遊びや活動の制限

ルールのある集団ゲームや、大人数で行う遊び(ドッジボールやリレー、大きな行事など)を経験する機会が限られる。

人数が少ないことで、年齢に合わせた活動が難しくなったり、お互いに競い合ったり協力し合ったりして成長する場面が減る。

### ・小学校への進学時のギャップ

ずっと限られた少人数で過ごすことで、小学校へ入学して急に大人数の環境になったとき、スムーズに適応できるかどうか心配される。

# 保育者ヒアリング②

## 2. 園の再編(統合)にあたって、保護者や子どもたちが安心するために

園が変わるといふ大きな変化に対して、保護者の皆様や子どもたちが不安なく過ごせるよう、配慮や準備を行う。

### ・丁寧で早めの情報提供

「自分の子どもがどこの園に行くことになるのか」をしっかりと考える時間を確保するため、これからの具体的な予定や流れをできるだけ早く伝える。

保育園が変わることによる、子どもたちにとってのメリット(より豊かな集団経験など)をしっかりと伝える。

### ・子どもたちの「心のケア」と新しい環境への準備

子どもたちが新しい園へスムーズに慣れることができるよう、事前に他の園の友達と遊ぶ「交流保育」や見学の機会を大切にしていく。

子どもたちが安心して新しいスタートを切れるよう、これまで関わってきた見知った保育士と一緒に異動するなどの配慮が必要。

### ・具体的な生活面の不安解消

遠くの園へ通うことになる場合の送迎への配慮(通園支援など)や、持ち物・クラス名の確認、食事(離乳食など)のルールの一統など、具体的な生活の変化について事前にしっかり話し合う。

# 保育者ヒアリング③

## 3. これからの公立保育園が目指す「役割」

公立保育園は、地域にお住まいのすべての子育て家庭にとって、安心できる心のよりどころ。

### ・どんなこどもたちも安心して通える場

障がいのあるお子さん、医療的ケアが必要なお子さん、外国籍のお子さんなど、特別なサポートが必要な家庭も含め、誰でも分け隔てなく受け入れ、守る場所としての機能を大切にする。

### ・地域の子育て支援の拠点

園に通っていないご家庭でも、気軽に子育ての悩みを相談できたり、一時保育や園開放などでいつでも遊びに来られたりする、地域密着の安心拠点を目指す。

### ・地域の魅力や文化を伝える場

その地域にある自然や文化、歴史などを大切にしながら、地域の人々と共にこどもたちを温かく育てていく環境を作る。

# 保育者ヒアリング④

## 4. こどもたちがのびのび育つ「理想的なクラス的人数」

こどもたちが多様な友達と関わり、社会性を身につけつつ、保育士の目が一人ひとりにしっかりと届く理想的な1クラス的人数(目安)。

### ・0歳～2歳児(乳幼児期)

個々の発達の違いが大きく、手厚い保育が必要な時期のため、数人～10人前後の目の届きやすい少人数クラスが望まれる。

### ・3歳～5歳児(幼児期)

話し合い(対話)をしたり、グループで協力して遊んだりできるよう、1クラス12人～20人前後の「ある程度の友達がいる環境」が、これからのこどもたちの学びや成長に最も良い。